Your Library

no.2
2008.06.20
SUMMER ISSUE

CONTENTS

❷－❸
情報リテラシーを身につけよう
～「知」をつかみとるための技術～

❹
読書ナビ
おしえてライブラリー
INFORMATION

PHOTO・社会科学系図書館

読書ナビ　第23回　「複言語主義」について考えるための10冊

異文化コミュニケーション学部准教授・浜崎桂子

『心は泣いたり笑ったり：マリーズ・コンデの少女時代』
（マリーズ・コンデ著、青土社、2002年）

『救われた舌：ある青春の物語』
（エリアス・カネッティ著、法政大学出版局、1981年）

『遠い場所の記憶：自伝』
（エドワード・W・サイード著、みすず書房、2001年）

『エクソフォニー：母語の外へ出る旅』
（多和田葉子著、岩波書店、2003年）

『たった一つの、私のものではない言葉：他者の単一言語使用』
（ジャック・デリダ著、岩波書店、2001年）

『星条旗の聞こえない部屋』
（リービ英雄著、講談社文芸文庫、2004年）

『由熙（ユヒ）』
（李良枝（イ・ヤンジ）著、講談社、1989年）

『旅のはざま』
（ルイサ・バレンスエラ［ほか］著、岩波書店、1996年）

『多言語主義とは何か』
（三浦信孝編、藤原書店、1997年）

『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』
（John Trim, Brian North, Daniel Coste原著 吉島茂［ほか］訳・編、朝日出版社、2004年）

「複言語主義（plurilingualism）」という概念は、欧州評議会が言語教育の方針としてうちだしているものである。全てのひとが母語に加えて二つ以上の言語を習得し、異文化や他の言語を理解・尊重することを学ぶことで、多文化共生社会を実現しようというのがその理念である。複数の言語文化圏が隣接しあい、紛争・大戦などの体験を経たヨーロッパならではの試みであるが、この理念は、これからの社会を生きる私たちに多くのヒントを与えてくれる。そもそも、家族や友人との会話であれ、教室での会話であれ、自分のことばが相手に通じないという経験は、多かれ少なかれ誰でもしたことがあるだろう。比喩的な意味でも、社会には異なる複数の言語が共存しているのである。ことばが通じなかったときに、相手と自分のことばについて、またその背景について考えることは、他者も、また自分自身も尊重する豊かなコミュニケーションのための準備運動になるだろう。

左にあげた本のうち、始めの8冊は、母語ではない言語で文学や批評を書いている書き手たちのものである。母語ではない言語を使うことのジレンマや緊張感、複数の言語を持っていることがもたらす豊かな発想や思考、複数の文化を横断することの刺激的なおもしろさに気づかせてくれる。

『多言語主義とは何か』には、具体的な世界の多言語状況についての論考が集められている。アフリカ大陸や、アメリカ合衆国、台湾の多言語状況、カリブ海地域のクレオール文化、亡命者の文学などについて知識を得たり、考えるきっかけとなるものである。

複言語主義をかかげた欧州協議会の言語教育の理念、実践の方法をまとめた『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』は、外国語教育にかかわる人を対象にしたものではあるが、複言語主義とは何か、多文化共生とは何か、なぜ、何を目標に外国語を学ぶのか、どのように学ぶのが効果的なのかを考える際のヒントがつまっている。ぜひ、（第1章だけでも）のぞいてみることをおすすめしたい。

※上記の資料はすべて立教大学図書館で所蔵しています。

おしえてライブラリー　第2回

Q OPACの所蔵場所に「人文図」という表示が出ました。「西書庫」「積層」といった表示も出ましたが、どこでしょうか…？

●「人文図」とは？
「人文図」は、「人文科学系図書館」の略です。人文科学系図書館は、立教通りの本館と反対側、6号館の1階と5階にあります。
1階には、辞書や百科事典、日本文学、歴史、宗教などの資料が所蔵されています。
5階には、教育・英米文学・独仏文学などの資料が所蔵されています。

●「西書庫」「積層上・下」とは？
「西書庫」は人文科学系図書館と通路でつながった西側の別館書庫、「積層」は5階閲覧室にある書庫のことです。
書庫と言っても、人文科学系図書館では、本館や社会科学系図書館と違い、学部学生の方も自由に書庫に入って利用できます。書庫の中にイスや机もあります。資料の所在場所がわからないときは、図書館職員に遠慮なくおたずねください。

A

5階：院生閲覧室風景
（ボックス席以外は学部学生も使えます。）

INFORMATION　早朝開館のおしらせ〈池袋本館・新座図書館〉

池袋本館と新座図書館では、試験期間中の下記日程は8:30に開館します。ぜひご利用ください。
（ただし、書庫の利用は通常通り、9:00からとなります。）
7月9日（水）～7月12日（土）、7月14日（月）～7月15日（火）、7月19日（土）、7月22日（火）～7月25日（金）

Your Library　第２号（通号61）

発行日　2008年6月20日
編　集　川崎　修（図書館副館長）
発行人　石川　巧（図書館長）
発　行　立教大学図書館
http://opac.rikkyo.ac.jp/

連絡先　TEL　03-3985-2628
E-mail　your_library@ml.rikkyo.ac.jp

メールにて、みなさんのご意見、ご感想をぜひお寄せください。

新装した「Your Library」も第2号となりました。
第1号とは雰囲気を変えて今回は「情報リテラシー」という少し固めのテーマを特集してみました。大学での「情報リテラシー」は、必要だとは知っていても、取り組むことはとても難しいテーマです。図書館でもより良い「情報リテラシー」をみなさんに提供するために、いろいろな試みを行っていきます。

情報リテラシーを
～「知」をつかみとる

私たちの周りには情報が大量にあります。また、インターネットや本、雑誌など情報を提供してくれる媒体もいろいろとあります。しかしそうした情報の「質」はさまざまです。なかには、疑わしいものや偏見にもとづくものも少なくありません。情報の洪水に流されないために、適切なツールを使って、必要な情報をすばやく手に入れる必要があります。情報の「質」を見きわめ、適切な情報を効率的に扱う能力を情報リテラシーといいます。

日常の情報リテラシー

みなさんは今まで、授業や読書、友達との会話などで何かを「知りたい」と思ったとき、どうしていましたか。インターネットや携帯電話で関連するサイトを眺めたり、書店や図書館に行って本を探したり、先生や知り合いに相談したりと、いろいろな方法で調べてきたのではないでしょうか。

例えば、映画を観たいときには、インターネットや携帯電話で映画情報を調べることが多いと思います。映画館の上映館や上映時間といった、いつどこで上映しているかという情報は事実がひとつしかないので、適切な情報源からすぐに調べることができます。

その一方で、観たいと思っている映画の内容や評価について知りたいときは、どうしているでしょうか。映画の公式サイトやパンフレットからは映画の見どころがわかるでしょうし、評価についてはサイトへの書き込みなどによって「面白かった」「つまらなかった」など、いろいろな感想にふれることができるでしょう。その中には、発信者の主観ばかりの情報もあれば、客観的かつ批評的に分析している情報もあるかもしれません。作品としての映画について調べるときにみなさんが無意識にしている作業は、実は大学の授業で出されたレポートやプレゼンテーションの準備として行う情報収集の作業と通じるところがあります。

大学での情報リテラシー

レポートの課題が出されたとき、いきなり原稿に思うことを書き出す人はいないはずです。まずは、テーマについて情報を収集する作業が必要になります。初めにインターネットでテーマについて検索する人も多いかもしれません。テーマについて、より考察を深めたいときには、図書や雑誌の記事から情報を集めようとするでしょう。図書や雑誌記事といっても一人の著者だけではなく、見解の違う他の著者のものも読むことで、調べているテーマについてどのような論点があるのかを探ることができます。授業の課題のために行う情報収集も、さまざまな資料から情報を得ていくという点で、映画作品について知りたいときに行うような日常の調べものと共通しています。

身につけよう
～ための技術～

＊リテラシー（literacy）という言葉の本来の意味は「読み書き能力」ですが、転じて特定の分野における基礎的な能力・知識をあらわします。つまり情報リテラシーとは、「情報を入手・理解・活用するための基本的な能力」と考えてください。

適切な情報源とは

授業の課題のための情報収集と日常の調べもの―方法に共通点があるとはいえ、全く同じというわけではありません。日常の調べものでは、本や雑誌であれインターネットであれ、自分が納得のいく情報を得られれば終わりです。一方で、特定のテーマについてレポートを書くということは、自分だけではなく、読み手が理解・納得できるものを作り上げることが必要になります。そのためには、情報収集を行い入手した先行研究を整理したり、一歩進めてテーマについて分析した上で自分の立場や考えを論じる必要があります。

さらに、日常の調べものと大学の課題のための調べものでは、情報源への配慮も異なってきます。自分のためだけの調べものならば、最初にふれたように、自分が納得できればそれで終わりです。しかしレポートや論文の場合は、入手した情報の出典を必ずあきらかにすることが必要です。探す場所が適切であれば、信頼できる論文などの情報に行き着きます。適切な情報源かどうか不確かな場合、調べた情報が本当に信頼できる情報なのか、さらに別の情報源で確認しなければなりません。大学での情報リテラシーとは、適切な情報源を判別し必要な情報や資料を探す能力、言い換えれば「知」をつかみとるための技術なのです。

図書館を利用しよう！

図書館には本、新聞、雑誌、オンラインデータベースなどの多様な資料や情報があります。そうした情報は評価が定まっていますので、論拠として引用することができます。レポートやプレゼンテーションなどの課題に取り組むときには、図書館で関連する資料をぜひ探してみてください。課題テーマに関するさまざまな資料があるはずです。そして、ひとつのテーマに対してさまざまな視点があることに気づくはずです。さまざまな視点に出会うことによって、徐々に情報を見きわめることができるようになるでしょう。そして、図書館の資料からいろいろな主張に出会い、選び、考えることによって、少しずつ皆さんの情報リテラシーの能力を磨いていってください。

図書館を知ろう！

図書館本館と新座図書館では、みなさんの学習の一助となる講座（全4回シリーズ）を開催します。
参加希望者は、図書館本館と新座図書館のカウンターで申し込んでください。

図書館活用講座

- ステップ1 OPAC講習会（本の探し方）
- ステップ2 雑誌記事論文検索講習会
- ステップ3 データベース講習会
- ステップ4 レポート論文作成・著作権講習会